

第1回米原市まち・ひと・しごと創生に関する有識者会議 会議録

会 議 名	第1回米原市まち・ひと・しごと創生に関する有識者会議
開 催 日 時	令和元年8月1日(木)10時00分～11時50分
開 催 場 所	米原市役所米原庁舎会議室2A(2階)
出席者および 欠席者	【出席者】金井座長、萩原副座長、古澤委員、村田委員、北村委員、田川委員、大澤委員、川瀬委員、馬淵委員、中村委員(10名) 【欠席者】宮崎委員、高木委員(2名)
議 題	(1) 第1期まち・ひと・しごと米原創生総合戦略の評価について (2) 第2期まち・ひと・しごと米原創生総合戦略の策定について
結 論	(1) 第1期まち・ひと・しごと米原創生総合戦略の評価について ・事業継続のための自走化支援を充実すること。 ・発信力を強化すること。特に評価されていることは積極的にPRすること。 ・企業・大学とも連携し、施策の実行力を高めること。 ・KPIの見直し 東洋経済新聞社「住みよさランキング」 20位以内→150位以内 (2) 第2期まち・ひと・しごと米原創生総合戦略の策定について ・Uターン促進・シニア起業・生涯活躍・小中学校でのビジネス教育について検討すること。 ・シビックプライドを醸成し、市民からの発信を促進すること。 ・米原駅周辺を有効活用し、駅から降りてもらう取組を推進すること。 ・第2期計画以後のリニア中央新幹線名古屋開通を見据えた検討とすること。
審 議 経 過 (主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。)	1 開会あいさつ (政策推進部次長) 2 自己紹介 (各自自己紹介) 3 座長・副座長の選出 選出結果： 座長 金井 毅委員 副座長 萩原 和委員 3 議題 (1) 第1期まち・ひと・しごと米原創生総合戦略の評価について 【資料1】 ・補助事業については、自走を促す仕組みが必要。メンターや大学連携、SOHO連携などサポート体制を検討すること。補助金額ではなく、サポート体制が目玉になるようなしくみを検討すべき。 ・ベンチャー企業は50代の起業者が3～4割といわれている。転職ありきの世の中になりつつあるが、若者の起業はリスクが大きい。シニア起業者を呼び込む視点も必要である。 ・子育て環境に対する市民評価が高いことは、積極的にPRし、うまく活用すべ

き。

- ・充実した教育環境を求めて地方に移住する人もいる。英語教育のほかにも市内事業者と連携して子どものアイデアから生まれた商品を実際に販売するなど経営感覚を肌で学ぶビジネス教育を取り入れてはどうか。
- ・全体的に発信が弱い。評価されていることは積極的にPRすること。ドラスティックな発信と地道な発信を織り交ぜ、SNSはこまめにしっかりと発信すること。
- ・市民が市内の観光地や名産品を知らないことが多い。市民が市のことを知る取組を推進し、市民からも発信されるように取り組まれない。
- ・観音寺の井戸から汲んだ水を使ったカフェやお茶・コーヒーでの企業連携など発想を実行に結びつける実力をつける必要がある。

■KPIの見直し

(説明)

東洋経済新聞社「住みよさランキング」について、2019年版からランキング指標が増加し、経年比較ができなくなったため変更するもの。現状の「20位以内」から県内で3位となる「150位以内」に変更する。

(審議結果)

KPIの変更を了承する。特に意見なし。

(2) 第2期まち・ひと・しごと米原創生総合戦略の策定について

【資料2・3】

- ・米原駅の利用者は多いが、駅前に何もないと駅から出ることではない。スーパーシティ構想や地域電力会社、自動運転など新しい発想についても地の利を生かして検討されたい。
- ・米原駅構内の活用について、生鮮食品など販売行為ができないかJRと協議してはどうか。
- ・米原駅周辺の利活用について容積率が課題との声もあるので確認されたい。
- ・市内の地域資源を何回も行きたくなるコンテンツに磨き上げてほしい。特に道の駅のブランディングが必要であり、また、それぞれの点を線や面にする発信も必要である。
- ・米原駅自由通路の展示を有効に活用すること。
- ・2027年にはリニアが名古屋まで完成する。名古屋から米原へ流入させる、米原から名古屋へ流出させない意識をもって策定されたい。
- ・米原駅周辺に観光案内所がない。統合庁舎での検討もされているようだが、庁舎が完成するまで待っている時間がもったいない。AI観光案内でもいいので現状を変えるべき。
- ・市内では多くの高齢者が活躍している。「日本一高齢者が輝くまち」などの発想も必要ではないか。70歳でも80歳でも働ける生涯活躍の推進を検討されたい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・長浜市では広報誌の表紙が市内の穴場スポットになっており、また、「ながはま百景」では市民公募で写真を集めてポータルサイト化され、まちの気付きにつながっている。市民がまちを自分ゴトにできる取組を検討されたい。 ・ある企業では10年内定・20年内定を出している事例がある。いずれは帰ってきてほしいという発想。若いうちは市外で働いて、Uターンして帰ってくる人を後押しする支援を検討されたい。 ・都市部では高収入でアクセスも良い利点があるが、地方移住では幸福度が高くなり、収入も夫婦で保つことで暮らしていける。米原はアクセスが良い田舎であり魅力的な地域。起業が増える実効性が高い施策と分かりやすい情報発信をされたい。 ・地域おこし協力隊が定住につながるためには密着した支援が必要となっている。メンターをつけるなどフォロー・相談体制の充実が必要。
<p>会議の公開・非公開の別</p>	<p>■公開 傍聴者： <u>0人</u></p> <p><input type="checkbox"/>一部公開</p> <p><input type="checkbox"/>非公開</p> <p>一部公開または非公開とした理由</p> <p>()</p>
<p>会議録の開示・非開示の別</p>	<p>■開示</p> <p><input type="checkbox"/>一部開示（根拠法令等：)</p> <p><input type="checkbox"/>非開示（根拠法令等：)</p>
<p>全部記録の有無</p>	<p>会議の全部記録 <input type="checkbox"/>有 <input checked="" type="checkbox"/>無</p> <p>録音テープ記録 <input type="checkbox"/>有 <input checked="" type="checkbox"/>無</p>
<p>担当課</p>	<p>政策推進課（内線91-246）</p>